

# 植物防疫情報第2号

令和5年6月15日  
岡山県植物防疫協会  
岡山県病害虫防除所

## ブドウべと病の防除を徹底してください

岡山県病害虫防除所の6月7日の巡回調査（簡易被覆栽培）では、発病程度は低いものの、発生圃場率が36.4%（平年7.3%）と過去10年で最も高くなっています。

広島地方气象台による向こう1か月の予報（6月8日発表）によると、平均気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並の見込みで梅雨時期の降雨の状況によっては今後被害が拡大する可能性があります。薬剤防除は予防散布が重要なので、圃場をよく観察し、防除を徹底してください。

（防除上の参考事項）

- （1）本病原菌は落葉した被害葉で越冬して第一次伝染源となり、5～6月の降雨時に病原菌が風雨ではね上げられて葉裏の気孔から侵入して発病する。その後、発病葉から病原菌が飛散して二次伝染する。感染後、発病までの潜伏期間は約7日間である。
- （2）発病した葉や花穂は二次伝染源となるため、見つけ次第取り除き、ほ場から持ち出して処分する。
- （3）防除暦に従い、定期防除を徹底し、発生の多いほ場では応急防除を行う。
- （4）ストロビルリン系殺菌剤（アミスター10 フロアブル、ストロビードライフロアブル、ホライズンドライフロアブル）を使用したにもかかわらず、べと病の発生が多い圃場では、耐性菌の発生が疑われるので他系統の殺菌剤を使用する。
- （5）農薬の使用にあたっては、果実の果粉溶脱に対する注意や収穫前日数を考慮して農薬使用基準を遵守し、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等への農薬飛散防止策をとる。



図1 ‘ピオーネ’の葉表の症状



図2 葉裏のべと病菌（白いカビ）

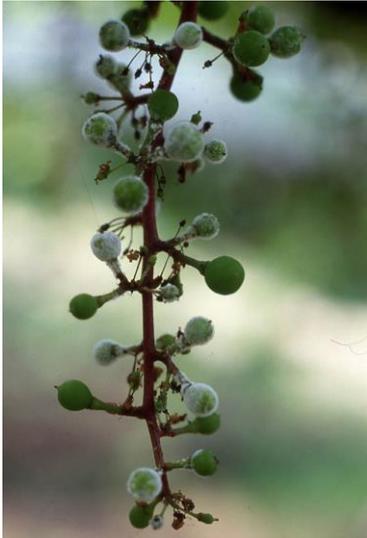


図3 幼果（小豆大期）の症状



図4 幼果（大豆大期）の症状

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。  
アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/>です。

